

会議議事録

会議名	第2回教育課程編成委員会	
開催日時	2015年8月30日(日) 12:00～13:30	
開催場所	彰栄リハビリテーション専門学校 会議室	
参加委員	参加者9名	工藤秀機、佐藤太智郎、原島宏明、保崎清人、森倉麗子 佐藤智恵子、金谷恵美、芦野裕一、長原将士
	欠席者1名	林淳三
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2015年度教育課程編成委員会委員名簿 2. 教育課程の検討事項一覧 3. 彰栄リハビリテーション専門学校教育課程 	
会議録	<ol style="list-style-type: none"> 1. 校長挨拶(保崎) 開会の挨拶。 2. 教育課程の検討事項(保崎) 第1回委員会において意見交換した中で、検討が必要であると判断した事項について、それぞれ協議を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 臨床実習での学生は、合否の結果だけを求めすぎているため、臨床実習での本来の目的である「患者のことを第1に考える」「患者の疾患を含めしっかり診る」といったことが、不十分であることから教育及び指導方法について検討が必要ではないか。 >作業療法演習Ⅱ・Ⅲ、作業治療学Ⅰ～Ⅴ、作業治療学実習Ⅰ～Ⅷ及び作業療法技術Ⅱの授業において、「患者の全体像を語ることができる」「患者のリスク管理を意識した係わりができる」を行動目標として指導を行っていく。 また、実際にそれがどういうことなのかについては、臨床実習の中で指導をしてもらいたいことから、臨床実習指導者会議において、学校の教育方針を説明し、臨床実習施設に理解してもらう。 (2) 作業療法士になる以前に、社会人として働くことをしっかり理解する必要がある。作業療法士に必要な知識及び技術だけではなく、就職して働くために必要な職業人としてのマナー及びコミュニケーション能力といった部分の教育について検討が必要ではないか。 >作業療法演習Ⅰの授業において、学校での基本的マナー及び職業人に必要なマナーについて指導を行っていく。 また、地域作業療法技術論Ⅱの授業において、各作業所へ体験実習を行っているため、その中で職業人として必要な能力についても指導を行っていく。 (3) 臨床実習の際に、利用者の方と日常会話から話すことができない学生が多いため、学校で学んだ技術を実施する前に利用者から拒否されてしまい、通常の臨床実習が行えず終了するケースがあるため、非常にもったいない。よって、利用者との信頼関係の作り方及び初 	

回面接の方法について検討が必要ではないか。

>作業療法演習Ⅰ・Ⅱの授業において、デイサービス等へ体験実習を行いコミュニケーションの取り方については指導を行っているが、一部の学生ができていないため、さらに強化して指導を行う必要がある。

また、将来的には患者役をやらせてもらえる業者に依頼し、ロールプレイを通じてコミュニケーション能力向上を図ることも検討していく。

- (4) 臨床実習でよく学生に見られるケースが、利用者の病気を診て問題点及び課題を出そうとするが、「生活にどう影響するか」という部分を考えていることができていないので、利用者の生活行為を診る視点の教育及び指導方法について検討が必要ではないか。

>作業治療学Ⅳ、地域作業療法学及び作業療法演習Ⅱ・Ⅲの授業において、「生活行為向上マネジメント」の概論及び演習を積極的に取り入れ、どの領域の疾患においても「生活行為向上マネジメント」の考え方に沿って症例検討の指導を行っていく。

また、臨床実習指導者会議において、「生活行為向上マネジメント」に基づき臨床実習指導を行ってもらおうよう説明し、臨床実習施設に理解してもらおう。

【注】生活行為向上マネジメントとは：患者にとって意味のある活動に焦点をあて目標設定し、それが実行できるために何が必要なかを評価のうえ、プログラムを計画し実行していくこと。

- (5) 臨床実習の際に、認知症に関する基本的知識及び係わり方が不足している学生がいる。よって、認知症に関する周辺症状の理解及び利用者の過去の生活歴を把握することで、利用者の不安や気持ちを理解し対応できるような教育及び指導方法について検討が必要ではないか。

>作業治療学Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ及び地域作業療法学等が関連科目であるが、各科目での授業内容を担当教員間で話し合い、認知症に関する基本的知識及び係わり方について、過不足のないように指導を行っていく。

また、精神医学の授業においても、認知症の病理及び特徴についての指導を強化していく。

3. 次回の日程について（長原）

次回の日程については、2016年6月を予定しており、詳細については、改めて連絡することが確認された。

4. 閉会